

# 2024年度 第2回 ジェンダーギャップを越える STEAM 教育研究会 ～中学・高校の新しい理数系教育の可能性～

日時：2024年12月15日（日）11:00～15:10

場所：国立大学法人奈良国立大学機構 奈良女子大学  
S棟ラウンジ（〒630-8506 奈良県奈良市北魚屋東町）

参加対象：中学・高校・大学等の教育関係者 あるいは  
女子教育やSTEAM教育に関心のある方

## ～プログラム～

10:30 - 11:00 奈良女子大学キャンパス案内 ※希望者

11:00 - 11:10 開会式

11:10 - 12:10 主題講演

講師：河野銀子氏（九州大学男女共同参画推進室 教授）

演題：インクルーシブな理数系教育に向けて

※河野先生のプロフィールは裏面をご覧ください

12:10 - 13:00 昼食 兼 ネットワーク作り

13:00 - 13:30 教育現場からの実践報告

13:30 - 14:00 休憩

14:00 - 15:00 ディスカッション

15:00 - 15:10 閉会式

申込方法：右のQRコードを読み取り、  
参加申込をお願いします。

申込メ切：12月6日（金）

子育て世代の参加者のために、当日は託児サービスを  
予定しております。サポートの必要な参加者は11月  
27日までに参加申込フォーム上でお申込み下さい。



問い合わせ先：学校法人ノートルダム清心学園清心中学校清心女子高等学校 担当：田中福人  
Tel: 086-462-1661 E-mail: tanaka-fu@nd-seishin.ac.jp

主催：奈良女子大学 STEAM・融合教育開発機構（RISE）

共催：立命館中学校・高等学校

学校法人ノートルダム清心学園清心中学校清心女子高等学校

本研究会は公益財団法人 中谷医工計測技術振興財団 及び 公益財団法人 村田学術振興・教育財団の助成を受けて運営しています。

社会の喫緊の課題である理工系人材の育成にはジェンダーギャップの解消が不可欠であり、女子中学生・高校生への支援策が必要です。

そこで本研究会では、実践例、有識者による提言、現状の分析等を手掛かりに、理数系教科の新しい教科指導・進学指導のあり方を研究します。また、同様の意識を持つ先生方とインクルーシブなSTEAM教育を考えるネットワークの構築を目指します。

## ○ 講師紹介



### 河野銀子

写真：共同参画 令和4年9月号より

#### 論文：

「女子高校生の「文」「理」選択の実態と課題」『科学技術社会論研究』7  
「理系進路選択とジェンダー：日本の現状を中心として」『アジア・ジェンダー文化学研究（奈良女子大学）』3  
「大学におけるジェンダーバランス改善に向けて—女子の大学進学実態と理系進路選択支援事業の現状から」『日本物理学会誌』79（6）  
「科学技術政策とジェンダー—学校教育への注目」『学術の動向』26（7） 他多数。

受賞歴：第10回東北大学澤柳記念DEI賞（A賞）

所属：九州大学 男女共同参画推進室 教授

学位：修士（教育学）、博士（社会学）

研究分野：教育社会学、ジェンダーと科学技術政策

研究キーワード：ジェンダーと科学技術、女子の理系進路選択、高大接続、教員のキャリア形成

学術活動：日本教育社会学会（代議員）、国際ジェンダー学会（理事）、日本性差医学・医療学会（評議員）、科学技術社会論学会、日本高等教育学会、等。

日本学術会議連携会員（23-24期、25-26期）、人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会、JSPS 男女共同参画推進アドバイザー。

著書：『理科離れているのは誰か—全国中学生調査のジェンダー分析』（分担執筆、日本評論社）

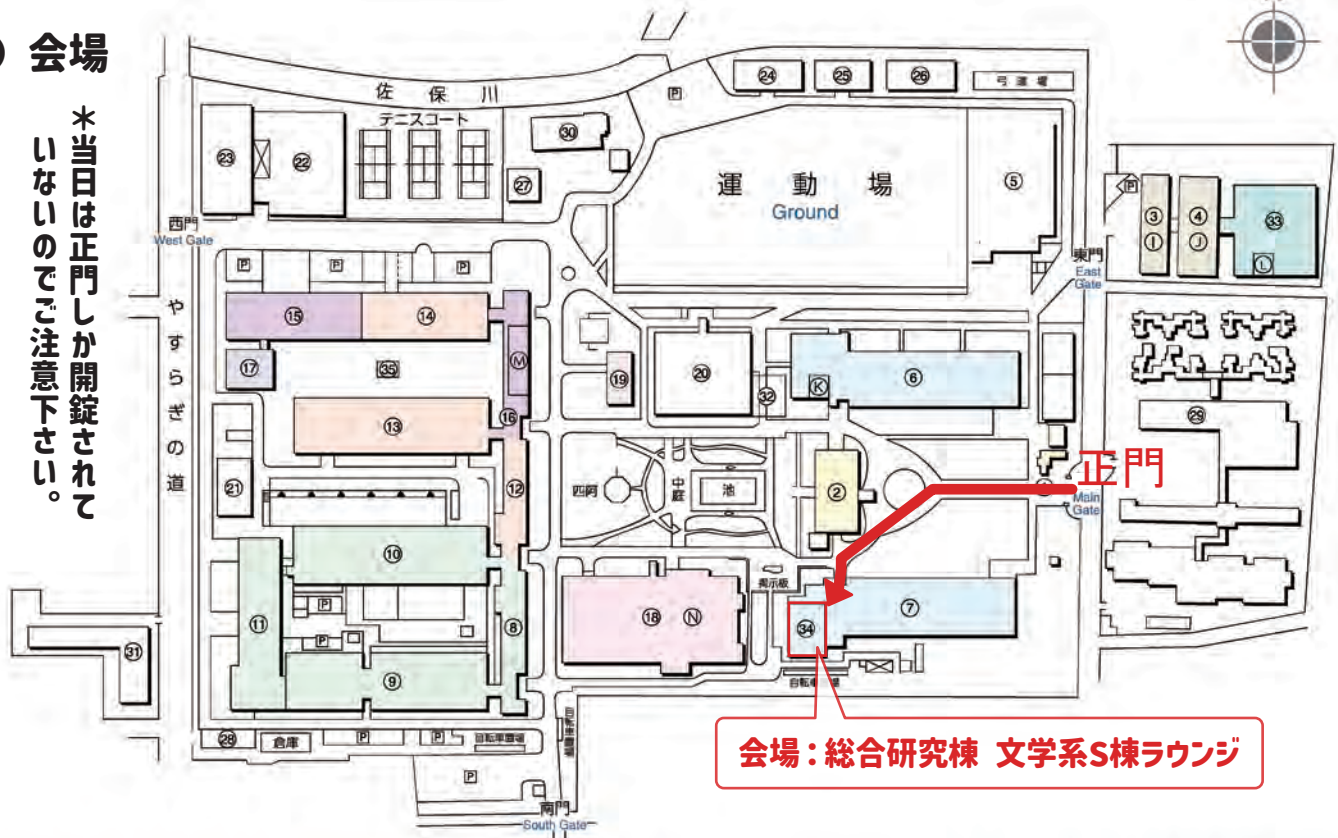
『女性研究者支援政策の国際比較—日本の現状と課題』（共編著、明石書店）

『新版 教育社会とジェンダー』（共編著、学文社）

『女性校長はなぜ増えないのか—管理職養成システム改革の課題』（編著、勁草書房）、他。

## ○ 会場

※当日は正門しか開錠されていないのでご注意ください。



会場：総合研究棟 文学系S棟ラウンジ

本研究会では、九州大学男女共同参画推進室の教授である河野銀子先生をお迎えしております。

河野先生は、長年にわたりジェンダー平等と多様性に関する研究・教育に取り組んでこられ、この分野での第一線を歩んでいらっしゃいます。前職の山形大学では四半世紀にわたり教員養成に従事され、九州大学着任後も教育機関や社会におけるジェンダーに関する課題に対し、積極的な取り組みを推進されています。また、学術的な研究のみならず、社会におけるジェンダー平等の実現に向けた政策提言や啓発活動にも尽力されており、多方面でのご活躍が高く評価されています。

今回の講演では、教育現場や企業においても役立つ貴重な情報や洞察を提供していただけたと思います。